

## モデルプログラム J-4 在籍学級での学習支援－教科書の分析と支援方法の検討－

ねらい	外国人児童生徒等が教科書の学習でどこに困難があるかを、教科書の分析を通して理解し、在籍学級で学習参加を促す支援方法を考える。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
外国人児童生徒教育・日本語指導の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
目的とする資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科書の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	J 在籍学級での学習支援
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1 教科書を見て、子どものつまずきポイントを考える。（20分） ・授業のことば／教科のことば(H) ・生活言語能力と学習言語能力(F)	1. 算数科の教科書を見て、授業では、外国人児童の日本語を配慮した支援が必要であることを理解する。 1) 算数科の教科書から単元の一つを選び、単元目標（教科の目標）を確認し、外国人児童の場合に達成が難しい点は何かを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             例) 単元：算数科2年生「三角形と四角形」              目標：辺や頂点などの構成要素に着目して、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見出すことができる。           </div> 2) その単元の教科・授業のことばを抽出し、日本語での理解の難しさを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             例) 三角形、四角形、形                    (日常でも使うが、算数の概念・知識)              頂点、辺、辺、直線、直角            (算数の用語)              点と点をむすぶ、直線で囲まれている、○から○に線を引く  <span style="display: block; text-align: right;">(日常生活で使う場合と異なる意味)</span>             仲間分けする、～について調べる、折って合わせる(行動・指示のことば)           </div> ◇理解を促すための支援例を紹介する。
2 在籍学級での支援方法を考える。（40分） ・学習材の言語面への配慮(J) ・教材の作成（リライト教材等）(H) ・スキュアフォールディング(J) ・日本語学習との関連付け(J)	2 自身が担当している児童の実態に応じて、教科書の授業における支援方法を具体的に考える（それぞれ、教科・単元を決めて検討する）。 1) 対象児童生徒・教科・単元を決める。 2) 教科書を見て、児童生徒がどこでつまずくか考える。 3) 2)で取り上げた箇所について、次のいずれかの方法で支援を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物の提示、体験・操作化    ・絵図・写真などによる視覚化</li> <li>・教科のことばをやさしい日本語で説明    ・漢字にふりがなをふる</li> <li>・ワークシート等をやさしい日本語でリライト</li> <li>・ヒントの提示    ・問いの具体化（はい／いいえ、選択で答えられるように）</li> </ul> ◇ワークシートを利用して活動を進める。 具体的な支援例については、1の活動で随時、紹介しておく。

<p>3 共有 (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象児童生徒の多様性(M)</li> <li>周囲の児童生徒による支援(J)</li> </ul> <p>4.活動を振り返りまとめる。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語指導との関連付け(J)</li> </ul>	<p>3 検討した支援の工夫について、参加者間で共有する。</p> <p>◇活動を通して、次の点に気づくよう働きかける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の学習のねらいや子どもの実態に沿った工夫が必要</li> <li>周囲の児童生徒との相互に学び合う場が重要</li> <li>外国人児童生徒等への支援や配慮は、学習面で困難のある全ての児童生徒に有効</li> </ul> <p>4 講師からの助言で次の点を確認し、実際に検討した支援方法を行う予定を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出身国の教科内容、シラバスが日本とは異なる場合が多いので、未習の場合には補う必要がある(未習領域や学習方法の相違)。</li> <li>日本語学級で取り出し授業を行っている場合は、日本語指導員と情報共有が重要である(学習内容・ワークシート等)。</li> </ul>																			
<p>備考</p>	<p>&lt;ワークシート例&gt;</p> <table border="1" data-bbox="501 757 1473 1256"> <tr> <td>教科・単元</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">対象児童・生徒</td> <td>滞日期間</td> </tr> <tr> <td>母語</td> </tr> <tr> <td>日本語の力</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その教科の力</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">躓くと考えられる箇所</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>②</td> </tr> <tr> <td>③</td> </tr> <tr> <td>④</td> </tr> <tr> <td>支援を考える躓き</td> <td>上で挙げた躓きの中から1つ選ぶ</td> </tr> <tr> <td>支援の工夫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施する時期</td> <td></td> </tr> </table>	教科・単元		対象児童・生徒	滞日期間	母語	日本語の力		その教科の力	躓くと考えられる箇所	①	②	③	④	支援を考える躓き	上で挙げた躓きの中から1つ選ぶ	支援の工夫		実施する時期	
教科・単元																				
対象児童・生徒	滞日期間																			
	母語																			
	日本語の力																			
	その教科の力																			
躓くと考えられる箇所	①																			
	②																			
	③																			
	④																			
支援を考える躓き	上で挙げた躓きの中から1つ選ぶ																			
支援の工夫																				
実施する時期																				